

[第2特集]

利用者・職員・事業所を守る

# 防災関連サービス特集

超高齢社会の進展に伴い、防災対策も新たなステージに突入している。小規模事業所や在宅介護の比重が今後もさらに高まることが予想されるなか、従来型見られたような「大規模施設のコンパクト版」の対策ではなく、「どのような対策が本当に求められるのか」を見きわめることが求められているのだ。ここでは、事業規模の大小にかかわらず、「本当に必要な対策」をもとに開発されたサービスを紹介した。自事業所や施設のオリジナルの防災対策立案の一助としていただきたい。

起こってからでは  
遅すぎる!



©artstada-Fotolia.com

(C) 2014 日本医療企画.

# 「地域から在宅へ」時代に適応した 身の丈に合った災害対策が求められる

東日本大震災は、日本の防災体制に関する新たな課題を浮き彫りにした。「高齢者」を念頭に置いた対策の整備である。3・11以降、介護施設に入所する高齢者が避難所へ移動することもままならず、非常食などが十分に備蓄されていない施設で避難生活を余儀なくされるケースが数多く見られた。

在宅も同様である。避難所へ移動することもできずライフラインの途絶えた自宅で孤立する高齢者が続出。地域のケアマネジャーが奔走して高齢者を「発見」、医療機関や避難所に連れていき、対応策を講じたことは記憶に新しい。

さらに、近年の「施設から在宅へ」という政策もあつて、介護度の高い高齢者でも中小規模の施設やグループホーム、あるいは在宅といっ

た場所に点在するようになってい  
る。本号「リーダーの現場力 人材育成」(44〜45ページ)で、川崎綾子・医療法人社団東華会介護事業部監査役は通所事業所の「泊まり機能」について災害対策の観点から考察しているが、高齢者が地域に点在すればするほど、防災対策も「広がり」が求められることになる。

川崎氏が指摘するように、いくら通所事業所の災害対策が万全でないからといって独居高齢者をむげに自宅へ送り届けるのは実際問題として難しい。さらに言えば、家族が同居している場合でも、災害発生直後に高齢者を引き取ってもらうというのは、決して簡単なことではない。それこそ「災害時レスパイト」のような機能を、介護事業所に求めたいというのには偽らざる本音だろう。

すなわち、どこか特定の施設だけで防火設備を整え、救済物資を届けられる体制を敷いておけば十

分というわけにはいなくなっているのだ。

とはいえ、中小規模の介護事業所が、大規模施設並みの防災対策を講じるのは難しい。けっして不熱心だったり、無関心だったりするわけではないが、そこまで余力を避けられないという介護事業者の辛い立場もある。弊誌9月号の「介護ト

レンドNOW」によると、避難訓練などの実施やマニュアル整備など、「ソフト面」での対応は50%以上の事業所が進めているものの、食料の備蓄は42・9%、水の備蓄は23・8%、燃料の備蓄に至っては4・8%にとどまっている。比較的充実しているソフト面での対応でさえ、不安要因として「対応する職員の疲労」がトップにあがるなど、けっして盤石というわけではない。

さらに、小規模の施設に対してもスプリンクラー設置等を求める姿勢を強めているが、大規模施設と同



様の仕組みをとり入れようとしても必ず無理が生じる。大規模施設の縮小版ではなく、小規模には小規模なりの防災対策が必要なのだ。

今回の特集では、いずれのシステム、サービス、アイテムも中小規模の施設や事業所、そこで過ごす利用者を念頭に置いたものばかりだ。これらの開発コンセプトにも耳を傾けていただき、自事業所独自の防災対策を検討していただきたい。

## 大規模施設用から家庭用まで あらゆる防災・減災用品の総合商社

キンパイ商事株式会社は、日本の消防ホースの草分けとして知られる帝国繊維株式会社が母体。官公庁から一般家庭まで、およそ2万点もの防災用品・減災用品を取り扱う総合商社だ。同社は欧米をはじめ世界の展示会で発表される新商品を常にチェックし、効果的な商品の輸入・販売を行うなど防災・減災分野への造詣が深い。今回は、特に介護事業者に求められる「避難」「避難後の生活」に着目した商品を紹介してもらった。



平井幹夫代表取締役会長(写真左)と防災事業部の東松晃子氏

### 携帯への一斉送信はFAXで 手軽で実用的な「Fライン」

「災害自体は避けられません。いかにダメージを減らせるか『減災』が重要です。まず、的確に緊急情報を伝えることが欠かせません。そのためには手軽さが重要です」と平井幹夫代表取締役会長が薦めるのはFAXを活用した手軽な防災情報一斉送信システム「Fライン」だ。

これは、手書き原稿とFAXさえあれば、伝えたい相手の携帯電話やスマートフォンに一斉送信できる斬新な商品。送り先は、専用紙のマークを塗りつぶして送信するだけなので、誰でも扱える手軽な仕様だ。

多くの消防・警察が初動情報を署員に送信する手段として採用しているなど、その効果は全国で実証されている。



### 既存の車いすを活用した 避難用品「JINRIKI」

「介護サービスの利用者さんは『避難行動要支援者』です。車いすを使われる方も多くおられますが、このJINRIKIを使えば、芝生や砂利道でも素早い避難が可能となります」と平井会長が薦めるのは、既存の車いすに牽引用のバーをとりつけるJINRIKIだ。バーがつくことで、まるで人力車のように車いすを前方から引張ることができる。

複数の介助者で対応ができるため、高台への避難などでも、健常者と同等の速度で移動することが可能。前輪が持ち上がったため、乗っている高齢者は路面の振動が軽減されるという。三重県や同県熊野市で、災害時要支援者対策用資機材に指定されている。



### 避難後の最重要は簡易トイレ 後処理まで考えた商品が必要

とりわけ避難後の生活で重要になるのは実はトイレだ。水や食料には気が回っても、意外とトイレ用品の備蓄が足りないケースが少なくない。避難所生活はもちろんのこと、長期間の断水で施設や家庭の水洗トイレが使えないケースも多く見受けられる。

いずれのケースでも平井会長が薦めるのは「サニタクリン便袋」だ。これは、袋と吸収シートが一体となった便袋で、広げるだけで手間なく使える。洋式トイレや和式トイレ、ポータブルトイレ用などラインナップも豊富だ。

「抗菌ポリマーを使用しているので、衛生面や防臭にも優れています。素材は紙オムツと同じものを使用しているため、通常の焼却処分ができます」と説明する。





[第2特集] 起こってからでは遅すぎる!

# 利用者・職員・事業所を守る防災関連サービス特集

## 暖かい食事でほっと息 バリエーション豊かな備蓄

避難生活でほっと一息つけるのは、やはり暖かい食事だろう。

「発熱剤もあるので、いつでもできたを味わえます。何より美味しいです」と説明するのは同社防災事業部の東松晃子氏だ。「備蓄食の『あきたこまち』は、ごはん、おかゆ、スープ、お米バスタと種類も多く、心豊かな食事でほっと一息つけます」

食物アレルギー特定原料27品目と貝類を使用していないなど、食物アレルギーにも配慮している。



## コンパクトで暖かさも抜群 『エアーマット暖』

最後に紹介するのは、バルーン

構造の『エアーマット暖』だ。

「空気層で設置面の温度を遮蔽し、体温をマット内に保つため、とても暖かいです」(東松氏)

専用ポンプで膨らませる仕様なので、備蓄時は非常にコンパクト。「空気でやわらかく膨らませば、とても快適です」と同氏はアドバイスする。



## 最適なソリューションで 防災・減災商品を提案

災害報道が増えるなか、利用者の命を預かっているという意識が高まり、介護事業所から同社への相談が増えているという。

「今回、ご紹介したものは取り扱い商品のごく一部。お問い合わせいただければ、事業所さんの事情に応じたあらゆる商品群を防災・減災のソリューションとしてご提案します」(平井会長)

## いざという時に使える防火・防災対策グッズ

あらゆる商品を取り揃えております！ご相談ください

### 避難する

[JINRIKI ジンリキ]

押すだけでは移動が困難な悪路でスムーズに移動!



### 食べる

[おかゆ&スープ]

秋田大潟村でできた流動性非常食



[エアーマット暖]

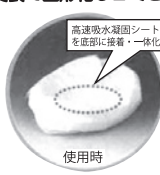
コンパクトで省スペース! 専用ポンプを使って約1分で簡単に膨らみます!

### 寝る



[簡単トイレセット]

袋袋で固形化しゴミとして捨てられます!



### トイレ

防災対策のカatalogをご用意しております。ご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。



消防・防災機器の総合商社  
**キンパイ商事株式会社**

本社 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原2丁目1番3号  
SORA新大阪21・1401室  
TEL : (06)6396-6451 FAX : (06)6396-6457  
E-mail: kinpai@teisen.co.jp <http://www.kinpai.jp>